2026　年度 授業計画(シラバス)

| 学　科 | 理学療法士学科 | 科目区分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 理学療法評価学Ⅱ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (3) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年生 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 普通教室 機能訓練室 |
| 担当教員 | 専任教員(オムニバス)<br>松岡隆裕 | 実務経験とその関連資格 | 理学療法士として臨床現場にて、様々な障害に対する理学療法評価を実施していた | | |

《授業科目における学習内容》

理学療法評価のうち、機能的評価から活動制限に対する評価項目について、全体的な位置づけと各種方法の実際を学んでいく。

《成績評価の方法と基準》

《使用教材(教科書)及び参考図書》

理学療法評価法　第3版　九州神陵文庫
配布資料

《授業外における学習方法》

より理解を深めるための事前学習を行い、また演習後は学生同士で検査備品を実際に用いて復習をする。

《履修に当たっての留意点》

「評価に始まり評価に終わる」と言われるくらいこの評価学は重要です。一つ一つの検査をイメージし学生同士で体得していきましょう。

| 授業の方法 | | | 内　容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。 | 指定テキスト | 事前学習(20分)<br>シラバスを読む<br>事後学習(40分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 理学療法評価学概要を知る　担当:可成 | | |
| 第2回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:評価の進め方・流れ<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 理学療法評価学概要を知る　担当:可成 | | |
| 第3回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:筋緊張<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 筋緊張検査について知る　担当:土居 | | |
| 第4回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:筋緊張<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 筋緊張検査の実際ができる　担当:土居 | | |
| 第5回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:反射<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 反射について知る(腱反射)　担当:山本 | | |

| 授業の方法 | | | 内　　容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第6回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:反射<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 反射検査の実際ができる(腱反射)　担当:山本 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:反射<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 反射について知る(病的・姿勢反射)　担当:山本 | | |
| 第8回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:反射<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 反射検査の実際ができる(病的・姿勢反射)担当:山本 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:感覚<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感覚について知る　担当:森下 | | |
| 第10回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:感覚<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感覚検査の実際ができる　担当:森下 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:片麻痺機能検査<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 片麻痺機能検査について知る　　担当:土居 | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:片麻痺機能検査<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 片麻痺機能検査の実際ができる　　担当:土居 | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:協調性<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 協調性について知る　　担当:土居 | | |
| 第14回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:疼痛検査<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 協調性検査の実際ができる　担当:土居 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:高次脳検査<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 高次脳機能・精神・知的検査について知る　担当:森下 | | |

2025　年度 授業計画(シラバス)

| 学　科 | 理学療法士学科 | | 科目区分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 理学療法評価学Ⅱ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (3) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 普通教室 機能訓練室 |
| 担当教員 | 専任教員(オムニバス)<br>松岡隆裕 | 実務経験とその関連資格 | 理学療法士として臨床現場にて、様々な障害に対する理学療法評価を実施していた | | | |

《授業科目における学習内容》

理学療法評価のうち、機能的評価から活動制限に対する評価項目について、全体的な位置づけと各種方法の実際を学んでいく。

《成績評価の方法と基準》

《使用教材(教科書)及び参考図書》

理学療法評価法　第3版　九州神陵文庫
配布資料

《授業外における学習方法》

より理解を深めるための事前学習を行い、また演習後は学生同士で検査備品を実際に用いて復習をする。

《履修に当たっての留意点》

「評価に始まり評価に終わる」と言われるくらいこの評価学は重要です。一つ一つの検査をイメージし学生同士で体得していきましょう。

| 授業の方法 | | | 内　容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第16回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:高次脳検査<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 高次脳機能・精神・知的検査の実際ができる　担当:森下 | | |
| 第17回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:バランス<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | バランス検査の実際を知る　担当:森下 | | |
| 第18回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:バランス<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | バランス検査の実際が行える　担当:森下 | | |
| 第19回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:姿勢観察<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 姿勢観察の実際を知る　担当:山口 | | |
| 第20回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:姿勢観察<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 姿勢観察の実際が行える　担当:山口 | | |

| 授業の方法 | | | 内　　容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第21回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:姿勢観察<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 姿勢観察の実際を知る　担当:山口 | | |
| 第22回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:姿勢観察<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 姿勢観察の実際が行える　担当:山口 | | |
| 第23回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:動作観察<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 動作観察を知る　担当:可成 | | |
| 第24回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:動作観察<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 動作観察が行える　担当:可成 | | |
| 第25回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:動作観察<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 動作観察を知る　担当:可成 | | |
| 第26回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:動作観察<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 動作観察が行える　担当:可成 | | |
| 第27回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:中枢神経疾患<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 動作観察を知る②(中枢神経疾患)　担当:臨床セラピスト | | |
| 第28回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:中枢神経疾患<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 動作観察が行える②(中枢神経疾患)　担当:臨床セラピスト | | |
| 第29回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ① 正確な評価方法に関する知識と技術を身につける。<br>② 神経学的検査を覚えることでより臨床像が見えるようになる。 | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:筋緊張・反射・感覚<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 全実技の振り返り　担当:山本 | | |
| 第30回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | ①-②について振り返り、理解と説明ができる | 指定テキスト | 事前学習(30分)<br>指定テキストを読む<br>:疼痛・協調性・バランス<br>事後学習(30分)<br>講義の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 全実技の振り返り　まとめ　振り返り　担当:山本 | | |